

令和6年度 保護者支援・地域支援

「子どもたちに絵本を」 ～想像力や感性を育むために～

日時：令和6年7月1日（月）15：00～17：00

会場：竹の塚地域学習センター

講師：白鷗大学 教育学部 教授 浅木 尚実 氏

本研修では絵本そのものに『愛着形成』や『ことばの発達』『聴くちから』を育む力があることを学びました。



なぜ絵本の読み聞かせが大切なのか？

背景…TwitterやFacebook、LINEで見知らぬ人との交流がネットワーク化しているSNSが溢れる現代、動画を見ている時は、おとなしいからとか忙しい為つい頼ってしまうとか、子どもが喜ぶからという理由でスマートフォンやタブレットを子どもに与えてしまいがちでは？

子ども時代に必要なのは、身近なおとなとの愛着形成

幼児期には、ひととの深い関わりが最も大切。身近なおとなと愛着を形成することによって、生涯にわたって安定した心をベースとして、意欲的でクリエイティブな挑戦ができる。そのすべてを発信できるのが「絵本の力」である。



1. 絵本が育むひととの絆"愛着形成"の4つのS



愛着形成の4つのSの物語のあるロングセラー絵本の一部を紹介します。
＊絵本を通して気持ちを伝えあえたよろこびは、子どもに大きな安心感として心に残ります。
おひざに抱っこしたり、子どもと一緒に体を動かしながら読んだりして、育児を楽しんでください。



「はじめてのおつかい」 林 明子/福音館書店

主人公のみいちゃんのドキドキする気持ちとお母さんが優しく見守っている様子が絵で表現されている。母の普遍的な愛情、「ちゃんと守るから」「色んなこと冒険して大丈夫なんだよ」心地良い安心感を親子で味わえる。

「ちいさなねこ」 石井 桃子/福音館書店

好奇心旺盛な子猫とその子猫を気づかう母猫の愛情が描かれている。心配しながらページをめくっていく子どもの気持ちも親子で共有したい。

「だいじょうぶ だいじょうぶ」 いとう ひろし/講談社

おじいちゃんの「だいじょうぶ」の言葉は、全ての不安を包み込んでくれているような不思議な強さがあるのです。その言葉にいつのまにか励まされ、いつしか心が落ち着いてくるのです。

「ロバのシルベスターとまほうのこいし」 ウィリアム・スタイグ/評論社

ロバのシルベスターは願いが叶う不思議な小石を拾います。ひょんなことから自分が石になることを願ってしまい、石になったシルベスターはもとの姿に戻れなくなってしまいました。お父さんお母さんは帰ってこないシルベスターを心配して、あちこち探し回りました。星が降るほどの夜になっても秋になり、冬になりそして春になっても見つかりません。この本を見た子どもたちは、自分がいなくなった時親がどんなに心配するかがわかり、両親に愛されていることがひしひしと伝わってくる物語です。



＊活動と活動の合間に絵本を読むことが多いが、もう少し愛着を意識して絵本を読んであげることが大事

あつという間の幼児期をのがしてしまふのはもったいない。読み聞かせは、親子で（身近なおとなとの）共有することの楽しさがあり、良い経験、良い思い出として残っていきます。



2. 幼児期の絵本の流れ



おすすめ絵本



乳幼児期
(0歳後半～1歳・2歳)

身近なおとなと愛着形成の絆を結ぶ時期

あかちゃん絵本 ことばの絵本
モノの絵本 ちいさなかがくのとも

「もこもこもこ」
谷川 俊太郎/文研出版

2、3歳



ものの名前を覚えたり基本的な生活習慣を身につける時期

物語絵本 社会科学絵本

「おつきさまこんばんは」
林 明子/福音館書店



4、5歳

仲間との遊びを楽しむ
非認知能力やクリエイティブに遊び、人生の基礎をつくる時期

ことば遊び絵本

「だるまちゃんとてんぐちゃん」
かこさとし/福音館書店



3. 聴くことは脳を鍛える



4. 読書と脳



* 聴くことはコミュニケーションの基礎になる

五感のうち耳が最初に発達してくる。読み聞かせによって子どもが言葉を発する際のイメージをつくる練習となっている。

幼児期に絵本やおはなしを聞くことの経験
➡将来の識字能力との関連が大きい



読み聞かせが重要である

豊かな脳を育てる

読み聞かせとは ・おとなは文字を読み、子どもは絵を読む
・耳で聴く音声文学
・絵と文とページをめくるドラマで構成



・研修の最後に石井桃子先生の言葉の紹介がありました。

本は友だち。一生の友だち。子ども時代に友だちになる本、そして大人になって友だちになる本。こうして生涯話しあえる本と出合あえた人は、仕合せである。



石井桃子



研修生の報告書より



絵本そのものに愛着形成やことばの発達、聴く力を育む絵本の力を学んだ。デジタルなものが溢れる現代だからこそ身近な大人とのふれあいが大切であり、人の声で読み聞かせることが重要であることを改めて認識した。

家庭への啓発については、絵本の貸し出しや、保育者が子どもたちの好きな絵本を手にとり、親子で触れ合える環境を整えるなどの工夫がみられた。



日々の保育の中で、だるまさんシリーズや「もこもこもこ」などスキンシップを取りながら読んだり絵や音の響きを楽しんでいたが、おすすめ絵本の一覧にあった「おつきさまこんばんは」を読んでいた。ゆっくり静かに読んでいくと「こんばんは」と頭を下げてみたり、雲がおつきさまを隠してしまう場面では、一緒になって言葉や身振りを真似する姿が見られた。すぐに「もう一回」とリクエストがあり、何度も楽しむことができた。改めて絵本を通して心の繋がりをを感じる事ができた。